

子どもの成長はあっという間

乳幼児期の、メディアへの接触欲求は成長するにつれエスカレートして、さまざまな危険も待ち受けています。

学童期になると・・・

昔にくらべ、ゲームに夢中で外遊びをあまりしないために、運動能力が低下しています。また、ゲーム機やスマホなどの小さな液晶画面を見る時間が長いと、視力の発達を妨げます。メディアとの接触時間の制限が大切です。

中高生になると・・・

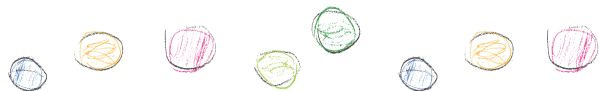
2013年の統計では中高生の8.1%、51万8千人が“ネット依存”に陥っているという調査結果があります。ほうっておくと“ネット中毒”になる危険性があります。“ネット中毒”になると、家族や自分の力で治すことができなくなり、専門的な治療が必要となります。また、LINEでのいじめや、ネットを通じた事件や犯罪に巻き込まれる可能性もでてきます。メディアとの接触時間の制限に加え、スマホ・PCのフィルタリングが必要です。



日本小児科医会では 次の5つの提言をしています

- ①2歳までは、テレビ・DVDの視聴を控えましょう。
- ②授乳中、食事時のテレビ・DVDの視聴はやめましょう。
- ③すべてのメディアへ接触する時間を制限することがたいせつです。1日2時間までを目安と考えましょう。
- ④子ども部屋にはテレビ・DVDプレイヤー・パソコンを置かないようにしましょう。
- ⑤保護者と子どもでメディアを上手に利用するルールをつくりましょう。

※ここでのメディアとは、テレビ・DVD・電子ゲーム・ケータイ・スマートフォン・タブレット端末などの電子映像メディアを指しています。



こどもステーション山口では・・・

子どもたちが「心ゆたかな子ども時代」を過ごせるよう、40年にわたって子どもたちの活動をサポートしています。なまの舞台を観たり、なかまを作っておおぜいで遊んだり、“五感を育てる”活動もさかんです。詳しくはホームページや毎年発行されるリーフレットをご覧ください。

発行：認定NPO法人こどもステーション山口
連絡先：〒753-0047 山口市道場門前2-4-20 国近ビル2F
OPEN 10:00~17:00 TEL/FAX 083-925-1486
e-mail co26station@yahoo.co.jp
http://blog.canpan.info/kodomo_s_y/

子どもの五感をどう育てますか？

あなたの赤ちゃんが
メディアの時代の実験台に?!

そのちょっとまって！
スマホのつかい方



いまだかつてない便利なメディアの氾濫の中で
赤ちゃんが、子どもが、どう育っていくのか、
人類は未知の危機にさらされています！
このままで、子どもの五感は無事に育つのでしょうか？

こんなに“べんり” こんなに“たのしい” 実は怖いのです！

あかちゃんが泣きやまない、
電車の中でぐずった

でも、スマホのゲームアプリでごきげん

だいじょうぶ？1

あかちゃんが
スマホの楽しさをおぼえると、
どんどんエスカレート！



あれこれ家事がいそがしくて
子どもにかまっていられない

そんなときはテレビやタブレットを
子守り代わりに…

だいじょうぶ？2

ことばが遅い、
語彙が少ない子どもに…

公園の砂場で一人で遊んでくれている
こんな時が息抜きタイム

親はゲームに夢中、
LINEでおしゃべり…

だいじょうぶ？3

夢中になっているスキに、
子どもにキケンが！



赤ちゃんはしゃべれないけれど・・・

赤ちゃんは、泣いたりぐずったりすることで「おなかがすいた」「おむつがぬれた」などの生理的欲求を知らせます。「だっこしてほしい」「あそんでほしい」などの気持ちを知らせていることもあります。ことばのやりとりができなくても「どうしたの？」と声をかけたり、だっこをくりかえすことで、親子の愛着とぎずながはぐくまれていきます。

赤ちゃんとのゆったりした時間をたいせつに

おっぱいをあげるとき、赤ちゃんを目をあわせたり、話しかけたりしていますか？ 赤ちゃんが人の顔を認識し始めるのは2ヶ月くらいからだと言われています。授乳しながらテレビやスマホをみないで、できるだけ赤ちゃんとのコミュニケーションの時間を持ちましょう。

育児に疲れたときは無理をせず、家事などは工夫して、息抜きの時間をつくりましょう。

子育て支援センターや、つどいの広場などにでかけて気晴らしをしたり、ファミリーサポートセンターなどを利用するのもいいですね。



授乳期はふりかえると短いものです。
ゆったりしたコミュニケーションが
赤ちゃんの安心感と
わが子への愛着を深めます。

見る・聞く・さわる・味わう・嗅ぐ 子どもの五感を育てよう

赤ちゃんは、人とふれあい、自然やものに接しながらさまざまな能力を育てていきます。スマホやタブレットの中の刺激的な色彩や音、一方通行の情報に慣れてしまうと、五感は健全に育ちません。自然の中で体を動かしたり、“ごっこ遊び”や“見立て遊び”をしたり、ちょっとしたお手伝いをしたりも子どもの五感を伸ばします。

子どもの成長はあっという間です。

こう育てなければ、と気負うのではなく、自然な子どもの成長をじっくり楽しめれば、おとなもしあわせな子育て期が過ごせそうです。



絵本の読み聞かせは、
お話をたのしむだけではなく、
親子がふれあえる
最高の時間です。



自然の中では子どももおとなも、
こころが開放されます



コンサートや人形劇の舞台を観にでかけましょう。
なまの、本物の芸術にふれることで
子どもの情感はゆたかになります。